

語り手 別所菊子さん
(明治35年生まれ)
昭和63年8月23日収録

あらすじ

ある日、「お父さんの法事をする」と兄貴が言いました。弟はブツという名だったそうです。「お寺さんに行って和尚さんを迎えて来い」。ブツは「和尚さんはどこにおられるの」と聞きます。「お寺の高いところに黒い着物着ておられる」と教えますと、ブツは出かけました。

お寺の屋根にカラスが止まっています。「お父さんの法事するけえ、来てごしなはれ」と言ったら、カラスは「アホウ、アホウ」って逃げてしまっただす。

法事の使い

(東伯郡三朝町吉尾)



イラスト・福本隆男

「愚か智」で2種類紹介

物着とられるけえ」。まわしがご飯を炊きかけとツ言っています。ブツはやになったし、和尚さんたブツは出かけました。ただけえ、わしの方が和怒って、火すくいに灰をにはお風呂など入ってもお寺の入り口に赤い馬尚さん、呼んでくる。おすくって釜の中にかけて「え」と言いました。がつないであつたそつで、まえ、このご飯見とつてす。ブツは「おとつあ、ごせ」と言つたそつです。迎えてもどつて「お寺さん、和尚さんにお風呂に入んにそねな、飯は出され言いました。「兄さん、アホウ」って逃げてください」と言いました。ツブツブツ言いだしまつたで、「そらカラス馬は「ヒヒヒヒン」とたそつです。ブツは「おい」と言いました。

だかな、もっぺん行って笑つて来ません。兄い、何だいや」と返事をアマダ(火棚)のハンドウ(水つぼ)に甘酒がしいだけえ、何ぞ、そこあつたそつです。兄さんは「わしがそらに上がつて下ろすけえ、おまえ、ケツうつかまえておれ。そつして「じつとつかまえてくれよ」。ブツに「つかまえたか」と言いますと、「つかまえた」と返事しました。

兄貴が手を離れたら、甘酒のハンドウは下にガシヤーンと落ちてしまいました。兄貴が「何でつかまえてらんのだら」と怒つたら、ブツは自分の尻を爪櫛つまかみの立つほごぎつつかまえておつたそつです。

「兄さん、和尚さんにお風呂に入らされたら、ブツが兄貴に言いました。「兄さん、ちいっと湯がぬるい」って言われるが、どがしようか。「兄さんは忙しんか脱いでおられたものをくべてしまつたそつです。こっぼり。

解説

関敬吾『日本昔話大成』で見ると笑話の「愚か智」の中に「法事の使い」として、2種類紹介されています。

別所さんのこの話の方は、山陰両県でもよく語られてるものである。(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)

それで「甘酒もいけん